

3 長野市の文化財の概要

(1)文化財保護法等による指定等文化財

市域に所在する文化財のうち、文化財保護法及び長野県文化財保護条例、長野市文化財保護条例に基づき、指定・選択・選定・登録を受けている文化財は、令和6年10月1日時点で 548 件を数える。このほかに重要美術品が6件ある。

類型		国指定・選定	国選択	県指定	市指定・選定、() は名勝・天然記念物	市選択	国登録	合計	
有形文化財	建造物	8	/	11	65	/	142	226	
	美術工芸品	絵画	2	/	2	8	/	0	12
		彫刻	15	/	8	27	/	0	50
		工芸品	3	/	7	15	/	0	25
		書跡・典籍	2	/	2	2	/	0	6
		古文書	0	/	0	10	/	0	10
		考古資料	0	/	1	12	/	0	13
		歴史資料	1	/	0	3	/	0	4
無形文化財		0	0	0	7	0	0	7	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	/	1	14	/	0	15	
	無形の民俗文化財	0	1	4	9	8	0	22	
記念物	遺跡	6	/	5	46	/	0	57	
	名勝地	0	/	1	4(1)	/	8	13(1)	
	動物、植物、地質鉱物	1	/	16	69	/	0	86	
文化的景観		0	/	/	/	/	/	0	
伝統的建造物群		1	/	/	/	/	/	1	
文化財の保存技術		0	/	0	1	/	/	1	
合計		39	1	58	292(1)	8	150	548	
その他		国		県		市			
重要美術品		6		/		/			
※制度がないものは「/」で表した								令和6年10月1日現在	

ア 有形文化財（建造物）

建造物は国指定では国宝が1件、重要文化財が7件、県宝が11件、市指定が65件、国登録が136件となっている。

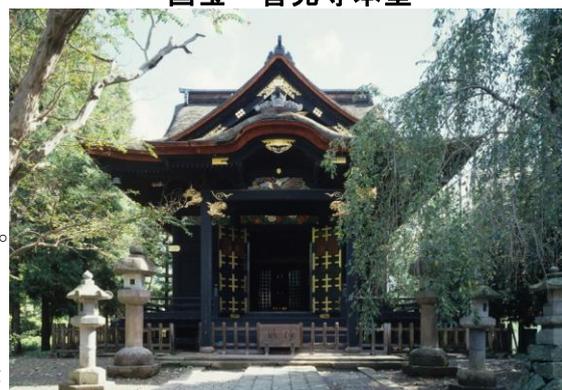
指定されている建造物の地区別分布は右図のようになる。松代地区、鬼無里地区、第一地区から第五地区に多い。

国宝は1件で、第二地区の善光寺本堂が指定されている。重要文化財は7件で、このうち第二地区の善光寺三門と善光寺経蔵は善光寺本堂と同じ境内に建つ江戸時代中期の建物である。また松代地区の真田信之霊屋と真田信重霊屋は松代真田家初代藩主とその三男の位牌を祀った建物で、旧横田家住宅は松代藩士の武家屋敷である。このほか鬼無里地区の白髯神社本殿と芋井地区の葛山落合神社本殿が重要文化財となっている。

県宝は11件のうち7件が松代地区に集中している。このうち皆神山の熊野出速雄神社本殿は中世の熊野系修験を伝える貴重な建築遺構である。また大英寺本堂は真田信之夫人小松姫の霊屋、林正寺本堂は真田家二代藩主信政の霊屋、長国寺開山堂は真田家三代藩主幸道の霊屋を利用したものであり、長国寺境内の四代藩主真田信弘霊屋と合わせ真田家の霊屋群が指定されている。このほか旧前島家住宅は現存する松代藩武家屋敷のなかで最も古い年代に属する建物であり、開善寺経蔵は真田家の祈願寺の建物である。次に数が多いのが芋井地区の3件だが、うち明治8(1875)年に建てられた旧長野県師範学校教師館と、明治37(1908)年に建てられた旧ダニエル・ノルマン邸はもと第四地区にあったものを、昭和46(1971)年に芋井地区に移設したものである。残る1件の葛山落合神社境内諏訪社社殿は室町時代後期に建てられた神社建築物として指定されている。戸隠地区にある南方神社本殿も室町時代後期の建造物として県宝に指定されている。



国宝 善光寺本堂



重文 真田信之霊屋

市指定は 65 件で、このうち最古のものは篠ノ井地区にある平安時代の石造多層塔で、次いで松代地区の石幢（笠仏）が鎌倉時代のものとされる。また南北朝から室町時代にかけて造立された石造宝篋印塔が 3 件（若穂川田、七二会、第二地区）指定されている。

木造では江戸時代以前の建造物として、浅川地区の諏訪神社本殿が建築様式から室町時代頃のものとしてされる。

江戸時代のものとしては、社寺（古牧地区守田の神社本殿、鬼無里地区松巖寺経蔵・観音堂・鎮守堂など）、武家住宅の表門（松代地区旧白井家表門など）、鐘楼（旧松代藩鐘楼など）、武家住宅（松代地区旧樋口家住宅）、霊屋（松代地区大鋒寺真田信之霊屋）、石造物（吉田地区の中越の庚申塔など）など、明治以降のものでは神社建築（鬼無里地区の荒倉山神社本殿、大岡地区の塩竈神社など）が多くを占め、そのほかに学校建築（更北地区の旧作新学校本館）と商家（松代地区の旧金箱家住宅）が指定されている。

国の登録有形文化財 136 件は江戸時代後半から明治時代のものが大部分を占める。地区別で見ると松代地区に 81 件（寺社、店舗、個人住宅など）、第一から第五地区に 19 件（旅館、店舗などと、特定の地区に集中している。

イ 有形文化財（美術工芸品）

美術工芸品は国指定では重要文化財が 23 件、重要美術品が 6 件、県宝が 20 件、市指定が 77 件となっている。

【絵画】重要文化財が 2 件、県宝が 2 件、市指定が 8 件で、地区別分布は右図になる。

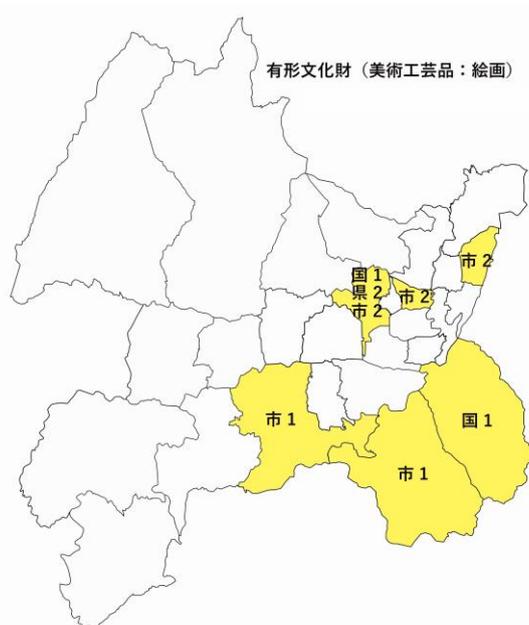
重要文化財では、鎌倉時代末期から室町時代初期の制作とされる第二地区善光寺大本願所蔵の絹本著色阿弥陀聖衆来迎図が県下に伝存する浄土教来迎図の中では最古のものである。また、



市指定 石造多層塔



市指定 旧作新学校本館



鎌倉時代前期の作と考えられる若穂地区清水寺の絹本着色両界曼荼羅図が県下における曼荼羅の最佳品として指定されている。

県宝では、善光寺大勧進が所蔵する絹本着色釈迦三尊像が県内では遺例が少ない鎌倉時代に遡る仏画である。また、善光寺淵之坊に残る室町時代制作とされる絹本着色善光寺如来絵伝3幅は、数少ない中世の善光寺如来に関わる絵伝であるとともに、絵解き図として実際に善光寺信仰流布に利用されていたことがわかる貴重な文化財である。

市指定では、いずれも江戸時代の制作で絵解きに利用されたとみられる長沼地区西巖寺の絹本着色鬼女紅葉狩の図と蓮如上人絵伝や、吉田地区善敬寺の絹本着色親鸞聖人絵伝4幅など8件を数える。

【彫刻】重要文化財が15件、県宝が8件、市指定が27件で地区別分布は次頁の図になる。

重要文化財のうち若槻地区の銅造観音菩薩立像は白鳳時代のもので市内の仏像の中で最も古いものである。若穂地区の清水寺にある木造聖観音立像ほか4件6軀の木造仏は、清水寺が大正5(1916)年の火事で焼失した後、再建時に奈良県から迎えた仏像で、いずれも平安時代から鎌倉時代初頭の作である。このほか、松代地区清水寺の木造千手観音菩薩立像ほか2軀、七二会地区の木造観音立像、信更地区観音寺の木造十一面観音立像が平安時代の木造仏である。また善光寺の金銅阿弥陀如来及両脇侍立像3軀は、江戸時代に江戸、京都、大坂をはじめ全国に出開帳をした際の開帳仏であり、現在も善光寺御開帳の際には前立本尊として公開されている。

県宝では、中条地区正法寺の木造聖観音菩薩立像ほか2軀、安茂里地区正覚院の木造伝観音菩薩立像など平安時代から鎌倉時代にかけての仏像8件(12軀)が市内に所在している。

市指定では、平安時代の作で川中島地区唯一の指定文化財である切勝寺の聖観音



県宝 善光寺如来絵伝



重文 銅造観音菩薩立像

菩薩立像や、同じく平安時代の作である第二地区世尊院の木造毘沙門天像のほか、明治初頭の廃仏毀釈によって戸隠山奥院の仁王堂から寛慶寺（第二地区）に移された木造金剛力士像などがある。

【工芸品】重要文化財が3件、県宝が7件、市指定が15件となる。

重要文化財としては奈良時代から平安時代初期のものとされる戸隠神社の牙笏、平安時代のものとされる若穂地区清水寺の鉄鍬形（長野市立博物館寄託）などがある。

県宝となっている松代地区玉依比売命神社所蔵の児玉石は、毎年1月7日に神社で行われる児玉石神事の際に用いられる。神事では神社所蔵の玉石類の数を数え上げ、その増減で年の吉凶を占うが、この玉石類のうち591顆が指定されている。

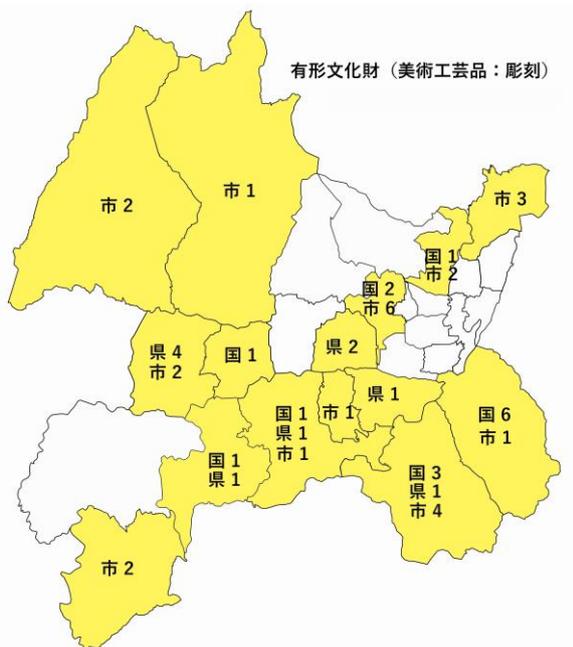
市指定のうち鬼無里地区にある4基の山車と2基の神楽は、現在の新潟県糸魚川市市振出身の宮大工北村喜代松によって幕末から明治時代初期にかけて製作されたもので、いずれにも精緻な彫刻が施されている。

【書跡・典籍】重要文化財2件、県宝2件、市指定2件を数える。このうち重要文化財の紙本墨書法華経残闕（平安時代末期―鎌倉時代）、県宝の戸隠山頭光寺流記（室町時代）はいずれも戸隠神社所蔵のもので、古くから戸隠山が信仰対象の山であったことを示す文化財である。

県宝ではほかに松代地区真田宝物館所蔵の真田家文書が真田家初代の幸綱（幸隆）以来真田家に代々伝来した文書として指定されている。市指定には同じく真田宝物館所蔵の佐久間象山筆桜の賦と豊野地区鷲寺諏訪神社所蔵の鷲寺諏訪社奉納俳額（長野市立博物館寄託）がある。

【古文書】古文書は市指定のみで10件を数える。このうち更北地区に残る「文禄四年中氷鉦村下氷鉦村御検地帳」は豊臣秀吉による太閤検地の検地帳である。

【考古資料】県宝1件、市指定12件を数える。県宝の伝川柳將軍塚古墳出土品は、

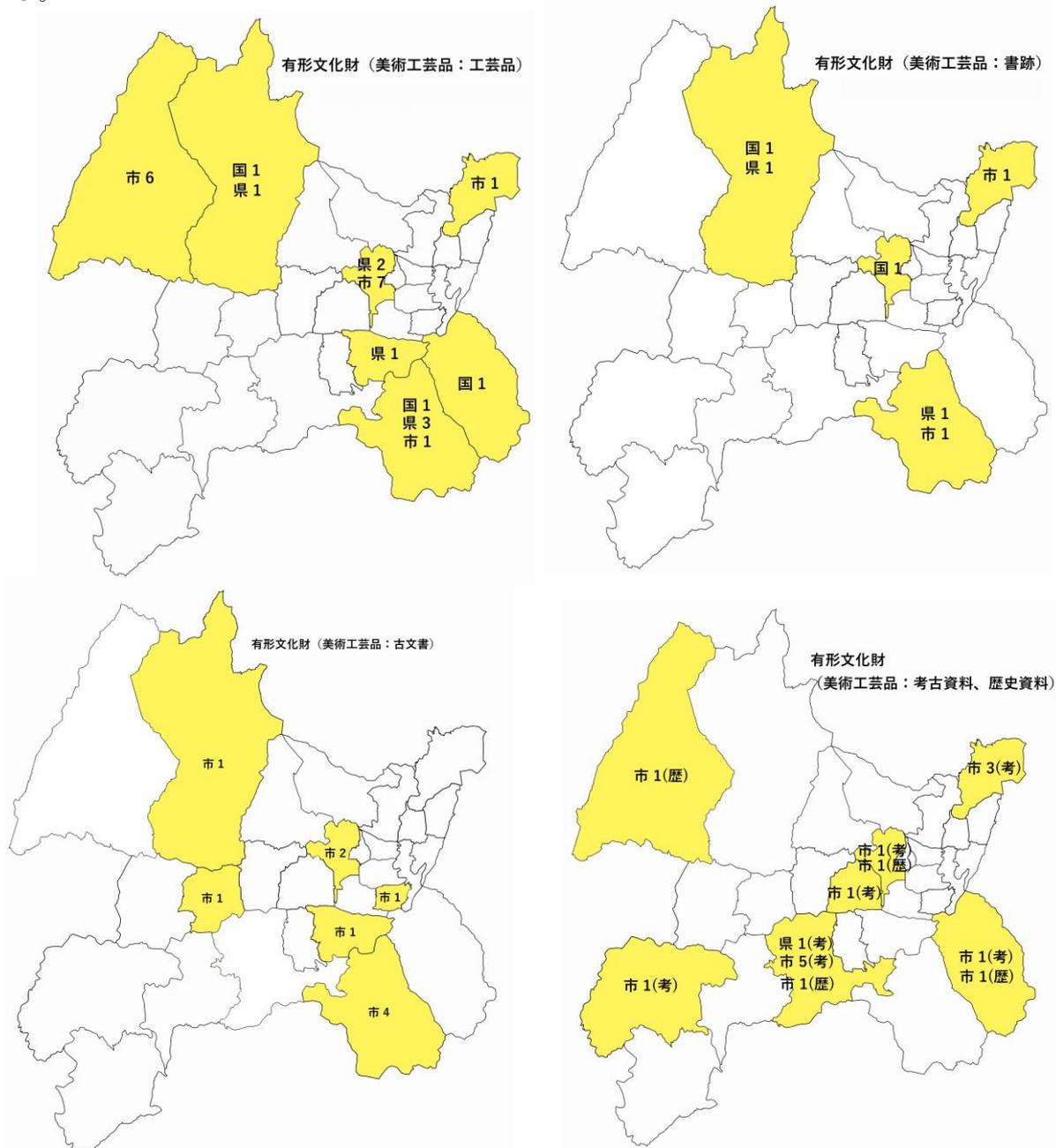


重文 鉄鍬形

篠ノ井地区の川柳将軍塚古墳から江戸時代に発掘された鏡・勾玉・管玉など（長野市立博物館寄託）で、篠ノ井地区上石川の布制神社に伝わったものである。市指定では川柳将軍塚古墳の陪塚から発見された埴輪円筒棺や、豊野地区の南曾峯古墳から出土した直刀などがある。

【歴史資料】重要文化財1件と市指定3件を数える。重要文化財の善光寺造営図は、室町時代享禄4（1531）年の善光寺再建にかかわる門その他付属建物の設計図であり、作図年代がわかる設計図としては現存最古のものである。市指定には鬼無里地区の松巖寺観音堂算額や篠ノ井地区有旅の高札板などがある。

なお、美術工芸品のうち絵画・彫刻以外の指定文化財の地区別分布は下図のようになる。



ウ 無形文化財

無形文化財は市指定7件を数える。

このうち善光寺木遣りは、江戸時代の善光寺再建の際に、江戸棟梁によって伝えられたものとされ、現在でも建築行事等で唄い継がれている。また八橋流箏曲は江戸時代初期に八橋検校が創始した琴の流派で、八橋検校に直接学んだ真田家2代藩主側室のお伏によって松代に伝えられたものである。このほか松代地区の大門踊りや戸隠地区の宣澄踊りなどが指定されている。



エ 民俗文化財

【有形の民俗文化財】県宝1件、市指定14件を数える。

県指定の小正月関係資料コレクションは、市内外の小正月行事で用いられる道具を長野市立博物館が収集したものである。

市指定には真田宝物館が所蔵する江戸時代の松代焼コレクションや第四地区の妻科と吉田地区の中越に残る庚申講人別帳及び用具一式（長野市立博物館寄託）、善光寺の祇園祭で曳航されていた第一地区西町上組の山車（長野市立博物館寄託）、善光寺の正月行事用具などがある。善光寺の正月行事用具は、善光寺で年末年始にかけて行われる堂童子行事で使用される一連の道具である。



市指定 善光寺木遣り



市指定 山車



【無形の民俗文化財】国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）1件、県指定4件、市指定9件、市の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（市選択）8件の計22件を数える。

国選択の若穂地区高岡のたかおか あずき や ぎょうじ小豆焼き行事は、正月15日集落の集会所で、囲炉裏の火で熱したカワラケに小豆を載せ、小豆の動きで年の吉凶を占う予祝行事で、どうそじんしんこう道祖神信仰と関わって行われる。

県指定となっている大岡地区のあしのじり芦ノ尻の道祖神祭り、はせおよ こし篠ノ井地区の長谷及び越のドンドヤキも道祖神信仰に基づく小正月行事である。県指定ではこのほかとがくしじんじやだい戸隠神社太神楽とだいかぐら さいがわじんじや もりほなび犀川神社の杜煙火がある。犀川神社の杜煙火は、安茂里地区犀川神社の秋祭りの際に、境内で行われる壮大な仕掛け花火である。

市指定及び選択では、市内各所で行われる獅子神楽のうち、安茂里地区の犀川神社太神楽や若穂地区のあかの た じんじや赤野田神社太神楽など代表的なものが8件選ばれている。このほか年中行事として松代地区たまより ひめのみことじんじや玉依比売命神社の御田祭・おんたさい こだまいししんじ児玉石神事・御判神事や、篠ノ井地区のひがしよこた いぬいし東横田と犬石で行われる虫送り行事などがある。玉依比売命神社の行事は正月6日・7日にわたって行われる一連の予祝行事で、東横田と犬石の虫送りは7月末から8月初頭に行われる稲の害虫除けのまじな呪い行事である。



国選択 高岡の小豆焼き行事



県指定 芦ノ尻の道祖神祭り

オ 記念物

【遺跡】国指定6件、県指定5件、市指定46件を数える。

国指定の史跡は、篠ノ井地区にある川柳將軍塚古墳・姫塚古墳（古墳時代前期）、松代地区のはにしなこふんぐん どうちしょうぐんづかこふん埴科古墳群土口將軍塚古墳（古墳時代中期）、松代地区おおむろこふんぐん大室古墳群（古墳時代中期から後期）など3件の古墳のほか、松代地区にあるまつしろじょうあつたりしんごてんあと松代城跡 附 新御殿跡、

松代藩主真田家墓所、旧文武学校といった松代藩ゆかりの史跡3件である。

県指定のうち、松代地区にある菅間王塚古墳と桑根井空塚の2件は合掌形石室を有する古墳、戸隠地区の戸隠神社奥社・中社・宝光社からなる戸隠神社信仰遺跡は戸隠山の信仰の歴史を伝える場所として指定されている。このほか戦国時代に武田信玄が馬場信房に築かせた信州新町地区の牧之島城跡や、松代地区に残る佐久間象山宅跡が県指定になっている。

市指定は、縄文時代の集落遺跡である中条地区の宮遺跡、古墳時代の祭祀遺跡である古里地区の駒沢祭祀遺跡のほか、古墳（篠ノ井地区の中郷神社前方後円墳、松代地区の竹原笹塚古墳など）、山城（豊野地区の大倉城跡、芋井地区の葛山城跡など）、宗教施設跡（豊野地区の神護寺跡、戸隠地区の奈良尾弘法遺跡など）、善光寺参道（敷石）などがある。

【名勝地】県指定が1件、市指定が4件（うち1件は名勝・天然記念物）、国登録が8件となっている。

県指定は鬼無里地区の奥裾花峡谷で、市指定は信州新町地区の久米路峡など3件に加え、名勝と天然記念物を包括した大岡地区樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落がある。



市指定 樋知大神社境内のお種池及び社叢と湿性植物群落



国史跡 松代城跡附新御殿跡



国の登録記念物は8件で、全て松代地区の^{せんすいり}泉水路を構成する武家住宅などの庭園（^{やまでらじょうざんしえていえん}旧山寺常山氏庭園など）である。

【動物・植物・地質鉱物】国指定1件、県指定16件、市指定が69件を数える。

国指定は、芋井地区の^{すざくらじんじや じんだい}素桜神社の神代ザクラ。県指定は樹木（戸隠神社奥社社叢など）のほか、市域の大地の形成を物語る化石類（戸隠川下のシンシュウゾウ化石、信州新町地区^{すがぬま}菅沼の絶滅セイウチ化石など）や、地質標本（若穂地区^{おおやなぎ}大柳及び井上^{まくら}の枕状溶岩、鬼無里地区^{ふかやきわ}深谷沢の蜂の巣状風岩）などがある。

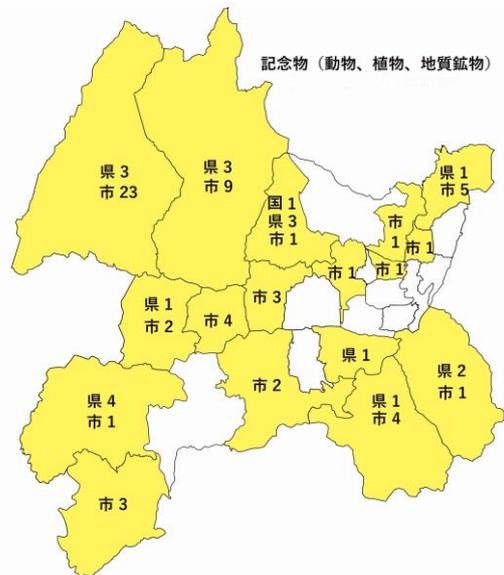
市指定には、戸隠地区のカワシンジュガイ、松代地区皆神山のクロサンショウウオの産卵池、^{めいとくじ}明徳寺のヒキガエル産卵池といった動物、芋井地区の葛山落合神社社叢、吉田地区の吉田のイチョウ、戸隠地区戸隠中社の三本杉などの樹木、鬼無里地区奥裾花のケスタ地形、^{れんこん}漣痕（リップルマーク）といった地質関係のものなどがある。

カ 伝統的建造物群

戸隠地区の中社及び宝光社地区には、戸隠信仰のもとに多くの参詣者を受け入れるために大規模化した宿坊や、門前町を形成した民家などの伝統的建造物が江戸時代以前からの町割りのもとに群として残されており、長野市戸隠伝統的建造物群保存地区（国選定重要伝統的建造物群保存地区）として歴史的町並みの保護を図っている。

キ 文化財の保存技術

市選定保存技術になっている^{きりはらまきじんじや}桐原牧神社の^{わらうま}藁馬づくりは、吉田地区桐原牧神社で春祭りの際に奉納・頒布される藁馬の製作技術で、現在も地元の保存会が記録の作成や



国天然記念物 素桜神社の神代ザクラ



長野市戸隠伝統的建造物群保存地区